

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成26年(2014)5月10日
No. 77
発行 高津啓洋

第二回大槌町植樹会と東日本大震災慰霊の旅



昨年に続き、4月18日～20日「第二回大槌町植樹会と東日本大震災慰霊の旅」に総勢15名で行って来ました。池袋西口から小雨の降る中、夜行バスで9時30分出発し、岩手県釜石市駅前に19日6時50分定刻に到着しました。昨年より1カ月早かったこともあり肌寒い旅でした。今年も一関自動車学校様のご協力を得て、斎藤典好さん(教官)の運転で初期の計画通り無事目的を達成できました。

朝、7時50分ごろ釜石市の新たな慰霊施設(NHKテレビでは、釜石の悲劇として報道されました)を訪ね、献花焼香をしまし



た。旧施設は200余りが亡くなられた元防災センター内にあったが、それを取り壊し新たに静岡市(県)が寄贈した施設になっていました。

大槌町植樹会は、主催が横浜ゴムで、大槌町が共催です。宮脇昭博士の提唱する、震災瓦礫を使った、命を守る森の防潮堤づくりを目指して、植樹をしてきました。その後、バスは旧大槌町役場仮慰霊施設を訪ね、地震発生直後、役場二階で緊急幹部会を開いていたところを津波に襲われ町長以下40名ほどが亡くなられたところです。その後、三陸海岸復興国立公



園 浄土ヶ浜を見学。一時の観光を楽しみました。最後に、奇跡の一本松として知られる、陸前高田市の慰霊施設を訪ね、献花焼香を捧げました。来年も第三回として「大槌町植樹会と東日本震災慰霊の旅」を予定しています。4月か5月となる予定です。(大滝)

温暖化が連続的な豪雨で冠水



パラグアイのレダの地域は、最近になく豪雨が降り続き、植樹地をはじめ、農業耕作地も写真のように冠水する状況となっています。また、首都アスンシオンも豪雨で道路が川のようになっているという報告を受けています。